

## 第2回 旧豊田貯水池利活用懇談会概要

### ○ 開催日時

令和2年1月31日 午後2時から

### ○ 会議内容

(1) 第1回懇談会の振り返り及び旧豊田貯水池利活用方針（案）等について → 了承  
資料にて説明

(2) その他

【主な意見等】※各意見の大括りは発言内容毎に事務局が整理したもの。

### ○ 利活用方針について

- ・この度の水害の経験から、この跡地利用には違った意味を盛り込めるのではないか。
- ・雨水を一時的に旧豊田貯水池で一度受けて（旧貯水池を）浸透させるなど、逢瀬川の水の量を、洪水時のピーク流量を減らすことに繋がるのではないか。
- ・雨水の処理をどうするかという計算はしないといけないけども、そこに降った雨はそこで処理をするということになる。
- ・3つの案があるが、いずれも緑地の提案で非常に安心したが、そういう点では、貯水効果が期待できるのではないか。
- ・浄化機能を持つ水辺エリアとし、自然の浄化機能を持たせられる部分はレインガーデンと合わせて作ってあげられればと思う。
- ・水を知るといいうものをコンセプトに盛り込みたい。安積疏水から水を知る「知水」といいうものを創りたい。
- ・祖父母と一緒に生活してない家が増えてきているため、子供や若者の体験経験不足が起きているので、世代間交流というのをいかに当たり前にするかが重要。
- ・未来を見据えて、今回の計画は進めるべきだと考えている。アイデアや個性や主体性を持った若者たちが、「自由に」「気軽に」申し込んで使用できるというのが絶対条件。
- ・イベントだけでなく、定期的に通う仕掛けもプランニングの中に埋め込みたい。
- ・10年後くらいに時代が変わったときの、余力として土地として利活用できるように、ヨシを残しておくという発想もできる。
- ・ニーズに応じて広げたり縮めたりできるということに関しては大賛成。柔軟な空間構成になるといい。
- ・今の世代で使い方を決めつけるような形にはしたくない。
- ・今回の水害を受けて、市民から水を溜められる場所を増やすべきという話は出ているので、下流側にこの場所があるだけで素晴らしい影響がある。

- 非常時と平常時に分けて考えた方がいい。千年に1回の雨の時は浸かって、地震がきた時は避難して人が入れるようなイメージになる。
- 日影がない場所にはみんな行かない。市民の方にご意見募る際には、木を多めに植えて日影を作るか、日影を作るような配慮が必要。